

10. 黄色蛍光灯を利用した「ピオーネ」の鱗翅目害虫の防除（技術）			
[要約]			
ピオーネに発生する主要な鱗翅目害虫（モモノゴマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、トビイロトラガ）に対し、黄色蛍光灯の点灯により、高い密度抑制効果が認められる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

近年、減農薬による安心安全な農産物生産が強く求められている。そこで、環境に優しい防除資材である黄色蛍光灯を利用したピオーネの主要な鱗翅目害虫の防除技術を確立し、殺虫剤散布回数の削減を図る。

[成果の概要・特徴]

1. モモノゴマダラノメイガによる果実被害は、黄色灯の無点灯区では被害果率が1.3～17.7%と高かったのに対し、点灯区では0.2%と顕著に低かった（表1）。
2. トビイロトラガ及びハスモンヨトウの生息幼虫数は、黄色蛍光灯の無点灯区では8月下旬から9月中旬にかけて密度が急激に高まったのに対し、点灯区では調査期間を通じてきわめて低密度で推移した（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 黄色蛍光灯は10a当たり10～12基設置し、害虫発生初期から終夜点灯する。
2. 害虫の密度が高いと効果が不十分なので、薬剤防除と組み合わせて使用する。
3. 黄色蛍光灯の防除効果については、さらに年次変動の調査が必要である。

[具体的データ]

表1 黄色灯点灯によるモモノゴマダラノメイガの被害抑制効果^Z

処理	品種	調査果数	被害果数	被害果率
点灯	ピオーネ	2820	6	0.2%
	安芸クイーン	600	1	0.2%
	高 妻	660	1	0.2%
	紫 玉	616	1	0.2%
無点灯	ピオーネ ^Y	462	45	9.7%
	安芸クイーン	378	67	17.7%
	オーロラブラック ^Y	1440	19	1.3%
	高 尾	660	26	3.9%

Z:平成17年8月9日～9月28日調査

Y:2区平均

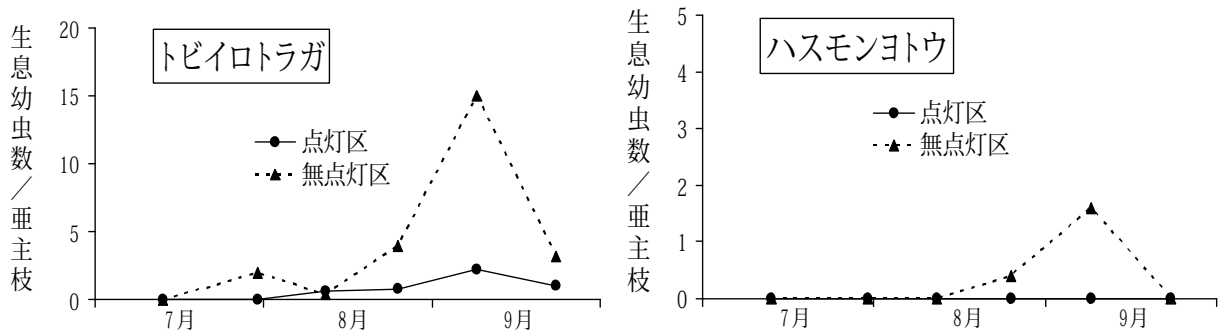


図2 トビイロトラガ・ハスモンヨトウに対する黄色蛍光灯の防除効果

[その他]

試験研究課題：フェロモン剤および黄色蛍光灯を利用したピオーネの減農薬栽培技術の確立

予算区分：交付金（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成 16～18 年度